

## 20191005 どんぐりについて

1. コナラ、クヌギ、シイ、カシなどブナ科の樹木の果実を指す総称である。
2. 狭義ではクヌギの実のことを言う。
3. 広義ではブナの実も、クリもどんぐりに含まれる。
4. ブナ科 ブナ属 ブナ、イヌブナ  
  
シイ属 スダジイ(沖縄ではイタジイ)、ツブラジイ  
  
マテバシイ属 マテバシイ、シリブカガシ  
  
コナラ属 クヌギ、アベマキ、カシワ、ウバメガシ、ミズナラ、ナラガシワ、コナラ、アラカシ、シラカシ、イチイガシ、ウラジロガシ、ツクバネガシ、アカガシ、オキナワウラジロガシ  
  
クリ属 シバクリ(ヤマグリ)
5. 日本の広葉樹林の半分以上はブナ科—どんぐりをつける木といっても過言ではない。
6. シイ類/カシ類は常緑樹 暖温帯から亜熱帯に育つ。  
シイ類……スダジイ、ツブラジイ、マテバシイなど  
カシ類……シラカシ、アラカシ、ウバメガシなど
7. ナラ類は落葉樹 冷温帯から暖温帯に育つ。コナラ、ミズナラ、クヌギ、カシワなど
8. スダジイとツブラジイはおいしい。
9. 山野に自生するクリはシバグリ(ヤマグリ)と呼ばれる。栽培品種の原種で、栽培品種より小粒である。
10. 森の動物の大切な食糧になるとどんぐりは、食べられると粉々になり破壊され、芽を出すことはないがリスやネズミ、鳥のカケスもどんぐりを運んで地の中に隠す。親木から遠くに運ばれ、埋めてもらったどんぐりは、安全に芽を出すことができる。
11. どんぐりは一般の種と異なり、子葉を広げない。子葉は地下貯蔵庫として、幼木が最初の葉を広げるまでの養分を蓄え、地中にとどまる。これは食害防止に役立つ。動物に狙われる子葉を、最後まで堅い殻で守れるからである。
12. 秋に地面に落ちたどんぐりは、すぐに根を出す。ここで失敗すると、冬の乾燥で死んでしまうので急いで根を張らなくてはならない。どんぐりクイズでは、根と葉がどこから出てくるかを子供たちに問うが、

秋のうちに根(上部の幼根から)を出して、次の春になってから葉(幼芽から成長して)を出すというタイムラグがあることを知っておく必要がある。おそらく植物の持つ体内時計という機能の働きによるものと考えられる。

13. どんぐりは何年かに一度、大量に実ると、次の年は少ししか実らない。この「なり年現象」は植物の戦略と考えられる。毎年たくさん実らせてしまうと、どんぐりを食べて動物が増え、せっかくの実も、結局、ほとんど食われてしまうことになる。しかし実り具合を不定期に変動させれば、不作年のあとには動物が減り、そこで大量に実らせれば大半が食われずに生き残れるというわけである。



ブロッコリーのようなスダジイの森



春の、香りのある花にも興味があるが、秋の、生食できるどんぐりにも驚かれる。

山原(やんばる)の森での標識



どんぐりの代表格 クヌギ



おいしいどんぐり スダジイ



秋に根が伸びてきて、次の春に芽(葉)が出る。

(当文書作成に当たっては、一部多田多恵子博士の著作から引用させていただきました。)